科学研究費助成事業

研究成果報告書



 平成 29 年 6月 1日現在

 機関番号: 13302

 研究種目:挑戦的萌芽研究

 研究期間: 2014~2016

 課題番号: 26600053

 研究課題名(和文)プラズモンイメージングとサブ細胞レベル磁気分離によるオートファジーの理解

 研究課題名(英文)Understanding of autophagy utilizing plasmon imaging and subcellular magnetic separation techniques

 研究代表者

 前之園 信也(MAENOSONO, SHINYA)

 北陸先端科学技術大学院大学・先端科学技術研究科・教授

 研究者番号: 00323535

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文):磁性-プラズモンハイブリッドナノ粒子(Ag/FeCo/Agコア/シェル/シェル型ナノ粒 子)を創製し、このナノ粒子を用いてオートファゴソームの磁気分離に挑戦した。ハイブリッドナノ粒子を哺乳 細胞にリポフェクションし培養したところ、30分後にはナノ粒子がVps26と共局在し、その後LC3と共局在する様 子が観察された。最適なタイミングで細胞膜を温和に破砕し磁気分離に供した。磁気分離分画にはLC3-II、トラ ンスフェリン受容体、及びLAMP2が濃縮されていたが、LC3-Iは含有されていなかった。これらの結果はオートフ ァゴソームが単離できたことを示している。

研究成果の概要(英文):We developed ultrasmall magnetic-plasmonic hybrid nanobeads and applied them to the isolation of autophagosomes by applying a magnetic field. The beads were chemically synthesized and comprised an Ag/FeCO/Ag core/shell/shell structure with a mean diameter of 15 nm. The Ag core and the FeCo shell conferred imaging and magnetic separation capabilities, respectively. The nanobeads were transfected into mammalian cells by lipofection. Thirty minutes after lipofection, the nanobeads co-localized with Vps26, and subsequently with LC3. Cell lysates were prepared at the appropriate time points and were subjected to magnetic separation. The separated fraction contained LC3-II, transferrin receptor, and LAMP2, but not LC3-I, suggesting that autophagosomes of endosomal origin had been isolated.

研究分野:ナノ材料化学

キーワード:オートファジー 磁気分離 バイオイメージング 細胞小器官

1.研究開始当初の背景

オートファジーとは、栄養飢餓などに応じ て細胞が自身の構成成分(細胞質や細胞内小 器官)をオートファゴソームと呼ばれる二重 の脂質膜の小胞で包み込んで、リソソームな どの加水分解酵素を豊富に含む場に輸送し 分解する現象であり、酵母からヒトにいたる まで真核生物が共通して持つシステムであ る。オートファジーは、新たなタンパク質の 合成、エネルギーの生産、様々な変性疾患の 原因となる異常タンパク質や侵入した病原 体を排除する役割を果たしている。この他に も、発生や分化や老化、細胞死、免疫応答と いった多彩な生命現象にも関与することが 次第に明らかとなり、オートファジーは、現 在では生命科学分野で最もホットな研究テ -マの一つとなっている。しかし、分子レベ ルでは未知の部分が多く、オートファジーの メカニズムの分子レベルでの理解が切望さ れている[1]。そのための方法の一つとして、 細胞内に形成されたオートファゴソームを リソソームと融合する前に単離し、膜タンパ クや脂質を解析するという手段が考えられ るが、オートファゴソームを単離する手段は 今のところ無い。

^[1]N. Mizushima, T. Yoshimori, and Y. Ohsumi, Annu. Rev. Cell Dev. Biol., **2011**, 27, 107

2.研究の目的

磁性とプラズモン特性を併有したハイブ リッドナノ粒子を創製し、哺乳培養細胞にこ のナノ粒子をトランスフェクションした後、 ナノ粒子の細胞内での局在をイメージング しながら(図1)、ナノ粒子がオートファゴ ソームに取り込まれたタイミングでオート ファゴソームを磁気分離することで(図2)、 オートファゴソーム形成に関わるタンパク の同定や、オートファゴソーム内容物の直接 分析を可能にする技術を確立することを目 的とする。



図1 ハイブリッドナノ粒子の細胞質への送 達とイメージング.



図2 ハイブリッドナノ粒子によるオートフ ァゴソームのイメージングと磁気分離.

3.研究の方法

細胞内物質輸送に係る細胞小器官を高選 択的に磁気分離するためには、まず標的小器 官に磁気ビーズを取り込ませ、何らかの方法 で可視化することによって磁気ビーズが標 的小器官に取り込まれたことを確認し、適切 な時間帯(細胞内物質輸送に係る小器官は、 多くの場合時間の経過とともに別の小器官 へ変態していくため。例えば、初期エンドソ ーム後期エンドソームリソソームなど) に細胞膜を温和に破砕して磁気分離を行う 必要がある。この一連の操作を可能にする磁 気ビーズの必要条件は(1)粒径30 nm以 下、(2)長時間イメージングが可能、(3) 優れた磁気特性、(4)高い表面機能化の自 由度、の4つである。

我々は、オートファゴソームの単離を目的 として、磁性材料の中でも最も高い飽和磁化 (酸化鉄の約4倍)を持つ鉄コバルト合金 (FeCo)と、プラズモン材料の中でも最 も高い散乱断面積(金の約10倍)を持つ銀 (Ag)を複合化したAg/FeCo/Ag コア / シェル / シェル型磁性 - プラズモン ハイブリッドナノ粒子を創製した(図3)^[2-5]。 本ナノ粒子は、粒径約15nmで、高い磁気 分離能力と長時間ライブイメージング能力 を兼ね備えた次世代バイオプローブである。 この独自開発の磁性 - プラズモンハイブリ ッドナノ粒子の表面をポリ - L - リジン(P LL)で被覆し、cos-1細胞(アフリカ ミドリザル腎細胞) にトランスフェクション した後、ナノ粒子の細胞内分布の培養時間依 存性を調べ、ナノ粒子がオートファゴソーム に最も局在するタイミングでホモジナイザ -を用いて速やかに細胞膜のみを破砕して 磁気分離を行い、ショットガンプロテオミク ス解析に供してオートファゴソームに局在 するタンパク質の同定を行う。



図3 Ag/FeCo/Agコア/シェル/ シェル型磁性 - プラズモンハイブリッドナ ノ粒子の(a)構造模式図と(b-d)透過 型電子顕微鏡像.

- ^[1]M. Takahashi, P. Mohan, A. Nakade, K. Higashimine, D. Mott, T. Hamada, K. Matsumura, T. Taguchi, and S. Maenosono, *Langmuir*, **2015**, 31, 2228
- ^[2]M. Takahashi, K. Higashimine, P. Mohan, D. Mott, and S. Maenosono, *CrystEngComm*, 2015, 17, 6923
- ^[3]M. Takahashi, P. Mohan, D. Mott, and S. Maenosono, *J. Magn. Magn. Mater.*, **2016**, 401, 339
- ^[4]M. Takahashi, P. Mohan, K. Higashimine, D. Mott, and S. Maenosono, *J. Appl. Phys.*, **2016**, 120, 134301

4.研究成果

ハイブリッドナノ粒子をcos-1細胞 にリポフェクションした後、ナノ粒子の細胞 内分布の培養時間依存性を調べたところ、ナ ノ粒子の局在が、初期エンドソーム、オート ファゴソーム、オートリソソームへと移行す る様子の可視化に成功した(図4A)。この 結果を踏まえ、オートファゴソームにナノ粒 子が取り込まれた時点でホモジナイザーを 用いて速やかに細胞膜のみを破砕して磁気 分離を行い、磁気分画成分をウェスタンブロ ッティングしたところ、LC3 - の濃縮が 確認された (図40)。 LC3-量はオー トファゴソーム形成と正の相関を示すこと が吉森、大隅らの研究でわかっているため、 オートファゴソームの磁気分離に成功した ことが確認された。このような成功例は既往 の類似研究には無い。



図4 ハイブリッドナノ粒子をcos-1細 胞にリポフェクションし、2時間培養後に撮 影した(A)共焦点顕微鏡像[青は細胞核(D API染色)、赤はオートファゴソーム(L C3染色) 緑はナノ粒子のプラズモン散乱. ナノ粒子はオートファゴソーム内に局在し ている し および (B) 透過型電子顕微鏡像 (挿入図はオートファゴソーム内に取り込 まれたナノ粒子の拡大像.ナノ粒子はリポフ ェクション試薬と複合体を形成している). (C)ウェスタンブロットの結果(サンプル) 名中の数字は培養時間).磁気分離分画 S2 - S8においてLC3 - の濃縮が確認さ れると同時にTrfR(エンドソームマーカ 一)及びLAMP2(リソソームマーカー) も確認され、反対にネガティブコントロール のGAPDHは検出されていないことから、 オートファゴソーム及びオートリソソーム の濃縮に成功したことがわかる。

5.主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

- ^[1]M. Takahashi, P. Mohan, K. Higashimine, D. Mott, and <u>S. Maenosono</u>, "Transition of exchange bias from the linear to oscillatory regime with the progression of surface oxidation of Ag@FeCo@Ag core@shell@shell nanoparticles", *J. Appl. Phys.*, **2016**, 120, 134301 (査読有)
- ^[2]M. Takahashi, P. Mohan, D. Mott, and <u>S.</u> <u>Maenosono</u>, "Exchange bias in Ag/FeCo/Ag core/shell/shell nanoparticles due to partial oxidation of FeCo intermediate shell", *J. Magn. Magn. Mater.*, **2016**, 401, 339 (査読有)
- ^[3]M. Takahashi, K. Higashimine, P. Mohan,

D. Mott, and <u>S. Maenosono</u>, "Formation mechanism of magnetic-plasmonic Ag@FeCo @Ag core-shell-shell nanoparticles: fact is more interesting than fiction", *CrystEngComm*, **2015**, 17, 6923 (査読有)

^[4]M. Takahashi, P. Mohan, A. Nakade, K. Higashimine, D. Mott, T. Hamada, K. Matsumura, T. Taguchi, and <u>S. Maenosono</u>, "Ag/FeCo/Ag core/shell/shell magnetic nanoparticles with plasmonic imaging capability", *Langmuir*, **2015**, 31, 2228 (査読有)

〔学会発表〕(計28件)

- ^[1] M. Takahashi, P. Mohan, K. Mukai, Y. Takeda, T. Matsumoto, K. Matsumura, M. Takakura, T. Taguchi, and <u>S. Maenosono</u>, "Imaging and isolation of autophagosomes using magneticplasmonic hybrid nanobeads", *The 8th International Symposium on Autophagy* (*The 8th ISA*), 29 May - 1 Jun 2017, 奈 良春日野国際フォーラム甍,奈良県奈良 市
- ^[2] 高橋 麻里, P. Mohan, 向井 康治朗, 武田 裕一, 松本 多圭夫, 松村 和明, 高倉 正 博, 田口 友彦, <u>前之園 信也</u>, "磁性 - プ ラズモンハイブリッドナノ粒子を用いた オートファゴソームの単離", *日本化学会 第 97 春季年会*, 16-19 Mar 2017, 慶應義 塾大学日吉キャンパス, 横浜, 神奈川
- ^[3] M. Takahashi, K. Higashimine, P. Mohan, D. Mott, and <u>S. Maenosono</u>, "Formation mechanism of Ag@FeCo@Ag core@shell@ shell nanoparticles: fact is more interesting than fiction", *The 2016 MRS Fall Meeting*, 27 Nov - 2 Dec 2016, Boston, USA
- ^[4] R. Kitaura, M. Takahashi, P. Mohan, D. Mott, and <u>S. Maenosono</u>, "Au@FeCo core-shell plasmonic nanoparticles with magnetic manipulation capability", *The 2016 MRS Fall Meeting*, 27 Nov - 2 Dec 2016, Boston, USA
- ^[5] R. Kitaura, M. Takahashi, P. Mohan, D. Mott, and <u>S. Maenosono</u>, "Magneticplasmonic Au@FeCo core-shell nanoparticles for next-generation biomedical applications", *The 2016 MRS Fall Meeting*, 27 Nov - 2 Dec 2016, Boston, USA
- ^[6] 高橋 麻里, P. Mohan, 東嶺 孝一, D. Mott, <u>前之園 信也</u>, "Ag@FeCo@Ag コア@シェル@ シェル型ナノ粒子における磁気交換バイ アスと FeCo シェル酸化膜厚の相関につい て - 線形領域から振動領域への転移", 第 67 回コロイドおよび界面化学討論会, 22-24 Sep 2016, 北海道教育大学旭川校, 北海道旭川市
- ^[7] 北浦 諒一, 高橋 麻里, P. Mohan, D. Mott, <u>前之園 信也</u>, "次世代医療技術へ向けた、

磁性-プラズモン複合 Au®FeCo コアシェル 型ナノ粒子", *第 67 回コロイドおよび界 面化学討論会*, 22-24 Sep 2016, 北海道教 育大学旭川校, 北海道旭川市

- ^[8] D. Mott, A. T. N. Dao, M. Takahashi, and <u>S. Maenosono</u>, "Electron transfer as a tool to create heterostructured nanoscale probes with robust, active, and enhanced sensing properties and functionality", ACS Fall 2016 National Meeting, 21-25 Aug 2016, Pennsylvania Convention Center, Philadelphia, USA
- ^[9] M. Takahashi, K. Higashimine, P. Mohan, D. Mott, and <u>S. Maenosono</u>, "Formation mechanism of Ag@FeCo@Ag core@shell@ shell nanoparticles", *The 2nd International Conference on Polyol Mediated Synthesis (IC-PMS 2016)*, 11-13 Jul 2016, 滋賀県立大学, 滋賀県彦根市
- ^[10] M. Takahashi, P. Mohan, K. Higashimine, A. Nakade, D. Mott, T. Hamada, K. Matsumura, T. Taguchi, and <u>S. Maenosono</u>, "Magnetic-plasmonic hybrid nanoprobes for isolation of intracellular membrane vesicles", *E-MRS 2016 Spring Meeting*, 2-6 May 2016, Lille, France
- ^[11]M. Takahashi, K. Higashimine, P. Mohan, D. Mott, and <u>S. Maenosono</u>, "Formation mechanism of Ag@FeCo@Ag core@shell@ shell nanoprobes designed for biomedical separation/imaging applications", *E-MRS 2016 Spring Meeting*, 2-6 May 2016, Lille, France
- ^[12]M. Takahashi, P. Mohan, D. Mott, and <u>S. Maenosono</u>, "Exchange bias in Ag®FeCo@Ag core@shell@shell hybrid bioprobes due to partial oxidation of FeCo intermediate shell", *E-MRS 2016 Spring Meeting*, 2-6 May 2016, Lille, France
- ^[13]S. Maenosono, "Next-generation biomedical magnetic nanoprobes", *E-MRS* 2016 Spring Meeting, 2-6 May 2016, Lille, France
- ^[14]M. Takahashi, P. Mohan, K. Higashimine, A. Nakade, D. Mott, T. Hamada, K. Matsumura, T. Taguchi, and <u>S. Maenosono</u>, "Magnetic-plasmonic hybrid Ag@FeCo@Ag core@shell@shell nanoprobes for isolation of intracellular membrane vesicles" (English, Poster), *日本化学 会第 96 春季年会*, 24-27 Mar 2016, 同志 社大学,京都府京田辺市
- ^[15]M. Takahashi, P. Mohan, D. Mott, and <u>S. Maenosono</u>, "Exchange bias in Ag/FeCo/ Ag core/shell/shell nanoparticles due to partial oxidation of FeCo intermediate shell"(English, Oral), 日本化学会第 96 春季年会, 24-27 Mar 2016, 同志社大学,京都府京田辺市

- ^[16]M. Takahashi, K. Higashimine, P. Mohan, D. Mott, and <u>S. Maenosono</u>, "Formation mechanism of Ag@FeCo@Ag core@shell@ shell nanoparticles", *PACIFICHEM 2015*, 15-20 Dec 2015, Honolulu, Hawaii, USA
- ^[17] M. Takahashi, P. Mohan, K. Higashimine, A. Nakade, D. Mott, T. Hamada, K. Matsumura, T. Taguchi, and <u>S. Maenosono</u>, "Magnetic-plasmonic hybrid Ag@FeCo@Ag core@shell@shell nanoprobes for isolation of intracellular membrane vesicles", *PACIFICHEM 2015*, 15-20 Dec 2015, Honolulu, Hawaii, USA
- ^[18]高橋 麻里,東嶺 孝一, P. Mohan, D. Mott, <u>前之園 信也</u>, "単分散 Ag®FeCo®Ag ダブル シェル型ナノ粒子の生成機構:サイズフォ ーカシングと表面偏析による自発的層構 造形成", 第66回コロイドおよび界面化 学討論会, 10-12 Sep 2015,鹿児島大学, 鹿児島県鹿児島市
- ^[19]高橋 麻里, P. Mohan, 中出 暁子, D. Mott, 松村 和明, 濱田 勉, <u>前之園 信也</u>, "磁 気分離とプラズモンイメージングの機能 を有した Ag®FeCo®Ag ダブルシェル型ナノ 粒子", *日本化学会第 95 春季年会*, 26-29 Mar 2015, 日本大学理工学部,千葉県船 橋市
- ^[20]M. Takahashi, R. Rastogi, P. Mohan, D. Mott, and <u>S. Maenosono</u>, "Investigation of the effect of polyol amount on FeCo@Ag magnetic-plasmonic hybrid nanoparticle synthesis", *The 2014 MRS Fall Meeting*, 30 Nov - 5 Dec 2014, Boston, USA
- ^[21]R. Rastogi, M. Takahashi, P. Mohan, D. Mott, K. Matsumura, and <u>S. Maenosono</u>, "Targeting of HepG2 cells using lactose modified magneto-plasmonic nanoparticles towards magnetic separation with optical detection", *The 2014 MRS Fall Meeting*, 30 Nov - 5 Dec 2014, Boston, USA
- ^[22]R. Rastogi, M. Takahashi, P. Mohan, D. Mott, K. Matsumura, and <u>S. Maenosono</u>, "Surface functionalization of magnetic-plasmonic nanoparticles with poly-L-lysine based polymer for cell targeting and imaging", *The 2014 MRS Fall Meeting*, 30 Nov - 5 Dec 2014, Boston, USA
- ^[23]高橋 麻里, R. Rastogi, 寺坂 慎平, P. Mohan, 武田 裕一, 中出 暁子, D. Mott, 濱田 勉, 松村 和明, 田口 友彦, <u>前之園</u> <u>信也</u>, "細胞内小胞の磁気分離に向けた磁 性-プラズモンヘテロ構造ナノ粒子の合成 及び特性評価", 第36回日本バイオマテ リアル学会大会, 17-18 Nov 2014, タワー ホール船堀,東京都江戸川区
- ^[24]M. Takahashi, R. Rastogi, S. Terasaka, P. Mohan, Y. Takeda, A. Nakade, D. Mott,

T. Hamada, K. Matsumura, T. Taguchi, and <u>S. Maenosono</u>, "Magnetic-plasmonic Ag® FeCo@Ag double-shell nanoparticles as novel bioprobes", *The 7th International Workshop on Advanced Materials Science and Nanotechnology (IWAMSN 2014)*, 2-6 Nov 2014, Halong City, Vietnam

- ^[25]高橋 麻里, R. Rastogi, 寺坂 慎平, P. Mohan, 中出 暁子, D. Mott, 濱田 勉, 松 村 和明, 田口 友彦, <u>前之園 信也</u>, "細 胞小胞のイメージングと単離を目的とし た磁性 - プラズモンハイブリッドナノ粒 子の合成と特性評価", 第65 回コロイド および界面化学討論会, 3-5 Sep 2014, 東 京理科大学,東京都新宿区
- ^[26]M. Takahashi, R. Rastogi, A. Nakade, D. Mott, K. Matsumura, T. Hamada, T. Taguchi, and <u>S. Maenosono</u>, "Magnetic core-plasmonic shell dual functional nanoparticles as a novel cellular probe for bioapplications", *The 15th IUMRS-International Conference in Asia* (*IUMRS-ICA 2014*), 24-30 Aug 2014, 福岡 大学, 福岡県福岡市
- [^{27]}M. Takahashi, P. Mohan, D. Mott, K. Matsumura, A. Nakade, T. Hamada, T. Taguchi, and <u>S. Maenosono</u>, "Magneticplasmonic heterostructured nanoparticles as a novel cellular probe for bioapplications", *UK Colloids 2014*, 6-9 Jul 2014, London, UK
- ^[28]M. Takahashi, P. Mohan, D. Mott, K. Matsumura, A. Nakade, T. Hamada, and <u>S.</u> <u>Maenosono</u>, "Magnetic core-plasmonic shell dual functional nanoparticles as a novel cellular probe for bioapplications", *E-MRS 2014 Spring Meeting*, 26-30 May 2014, Lille, France

[図書](計2件)

^[1] "Magnetic nanoparticles for organelle separation", M. Takahashi and <u>S.</u> <u>Maenosono</u>, *Magnetic Nanoparticles: From Fabrication to Clinical Applications 2nd Volume*, Edited by Nguyen T. K. Thanh, Chapter 12, CRC Press/Taylor and Francis (2017) in press

^[2] "Synthesis and characterization of magnetic-plasmonic hybrid nanoparticles", M. Takahashi, R. Kitaura, P. Mohan and <u>S. Maenosono</u>, *Nanomaterials* for Magnetic and Optical Hyperthermia Applications, Edited by Raluca M. Fratila and Jesús M. de la Fuente, Elsevier (2017) in press

〔産業財産権〕 出願状況(計2件)

- 名称:新規なコアシェル型ナノ粒子およ びその製造方法
- 発明者:北浦 諒一, 高橋 麻里, <u>前之園 信也</u>

- 権利者: 旭化成株式会社 種 類: 特許 番 号: 特願 2016-170637 出願日: 2016年9月1日 国内外の別: 国内 名 称: 金属複合体粒子及びその製造方法 発明者: 前立国 信也 高橋 英思
- 発明者: <u>前之園 信也</u>,高橋 麻里 権利者: 新日鉄住金化学株式会社
- 惟州有: 新口蚨住金化子休式安住 铥 新,性盐
- 種類:特許
- 番号:特願 2015-031559
- 出願日: 2015年2月20日
- 国内外の別:国内

取得状況(計0件)

- 〔その他〕
- ・高橋 麻里さん:日本学術振興会 H27 年度 特別研究員DC1に採用
- ・高橋 麻里さん: IUMRS-ICA 2014 (2014 年 8月 24-30 日、福岡)で奨励賞を受賞
- ・高橋 麻里さん: IWAMSN2014(2014年11月
 2-6 日、ベトナム・ハロン市)でベストポ
 スター賞を受賞
- ・高橋 麻里さん: E-MRS 2016 Spring Meeting (2016 年 5 月 2-6 日、フランス・リール) で Young Scientist Award を受賞
- ・北浦 諒一君:第67回コロイドおよび界面 化学討論会 国際シンポジウム(2016年9 月22-24日、旭川)でベストポスター賞を 受賞
- Priyank Mohan 君:日本化学会第97春季年会(2017年3月16-19日、慶應義塾大学日吉キャンパス)で学生講演賞を受賞

6.研究組織

- (1)研究代表者
 前之園 信也(MAENOSONO SHINYA)
 北陸先端科学技術大学院大学・先端科学技
 術研究科・教授
 研究者番号:00323535
- (2)研究分担者 なし
- (3)連携研究者 なし
- (4)研究協力者 田口 友彦(TAGUCHI TOMOHIKO) 東京大学大学院薬学系研究科・准教授

向井 康治朗(MUKAI KOJIRO) 東京大学大学院薬学系研究科・助教

高倉 正博(TAKAKURA MASAHIRO) 金沢大学附属病院周産母子センター・准教 授

和栗 聪(WAGURI SATOSHI)

福島県立医科大学・解剖/組織学講座・教 授

松村 和明(MATSUMURA KAZUAKI) 北陸先端科学技術大学院大学・先端科学技 術研究科・准教授